

扱い手への農地集積・集約化と農地の確保に関する次の記述A～Dのうちには妥当なものが二つある。それらを選んでいるのはどれか。

- A. 日本の農地面積は、平成2（1990）年に約520万haあったが、令和2（2020）年には、約440万haとなった。
 - B. 令和2（2020）年の北海道の1農業経営体当たりの経営耕地面積は、都府県平均の約3倍となっている。
 - C. 農地中間管理機構（農地バンク）は、地域内に分散・錯綜する農地を借り受け、まとまった形で扱い手へ再配分し、農地の集積・集約化を行っている。
 - D. 農地面積に占める扱い手への農地集積率は、近年上昇しており、令和元（2019）年度末時点で30%になっている。
-
- 1. A, B
 - 2. A, C
 - 3. A, D
 - 4. B, C
 - 5. B, D